

# NETIS

新技術情報提供システム

NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

## 新技術登録申請書類 作成マニュアル (24.9 版)

### ◆ 本マニュアルの位置付け

本マニュアルは、NETIS ホームページに掲載されているマニュアルの内容を、さらに分かりやすく解説しています。申請書作成時にご活用ください。

### ◆ 一時保存とタイムアウトについて **【重要】**

ログイン後から 120 分経過すると保存が出来なくなるため、作成中はこまめに一時保存することを推奨します。入力画面の左上部分にある「一時保存」ボタンのクリックで内容が一時保存されます。

### ◆ 「様式-2」について

- 「様式-2」は、新技術登録申請の根幹となる様式で、NETIS 上に公表されます。
- 「様式-2」の記載内容は、申請技術の概要、適用範囲、従来技術との比較、施工方法、施工実績、実験等実施状況等です。  
特に、従来技術との比較では、活用効果調査表の評価 6 項目(本マニュアル 8 ページに記載)の優れていた点・劣っていた点を念頭におき、従来技術と比較し優れるのか、劣るのか等違いを、根拠を元に記載して下さい。
- 記載内容は、閲覧者が本技術を利用するか否かの判断に利用されます。数値の算出方法や出典を明らかにし、閲覧者が自身の現場で利用する際にメリットがあるか？を判断できる記載内容として下さい。
- 使用用途が複数ある技術の場合、用途ごとに申請（従来技術を個別に設定して複数申請）を行うのか、一つの用途を選定し申請（他の用途は申請書内に記載）するか判断する必要があります。（判断しがたい場合は事前に相談して下さい。）

### ◆ 「詳細説明資料」について



実験等で得られた数値を元に作成します。

- 「詳細説明資料」は、表形式で主に数値により「申請技術の現行基準(値)への適合判定」及び「申請技術と従来技術の比較」を行うものです。
- 申請技術に求められる基準・規格値、機能、性能等については、必ず項目立てをして記載して下さい。  
また、製品・機械・設備の寸法・重量・材質・塗装仕様も記載して下さい。
- 「様式-2」の内容を、1 枚の表に圧縮するイメージです。簡潔に分かりやすく記載してください。
- 「詳細説明資料」は②⑤⑥⑦⑧を除き、NETIS 上に公表されます。

### ◆ 「比較表」について

- 「比較表」は、「従来技術と申請技術の比較」と「従来技術と類似技術の比較」を行うものです。
- 「比較表」は、外部への公表は行われません。新技術活用評価会議及び国土交通省職員の参考資料として使用されます。



様式 2 の作成にあたり、「比較表」により NETIS の類似技術を検索し、作成の参考にしましょう。従来技術の妥当性チェックや、申請技術の特徴の明確化（論点整理）、効果的な情報の提示方法の把握を行ってください。

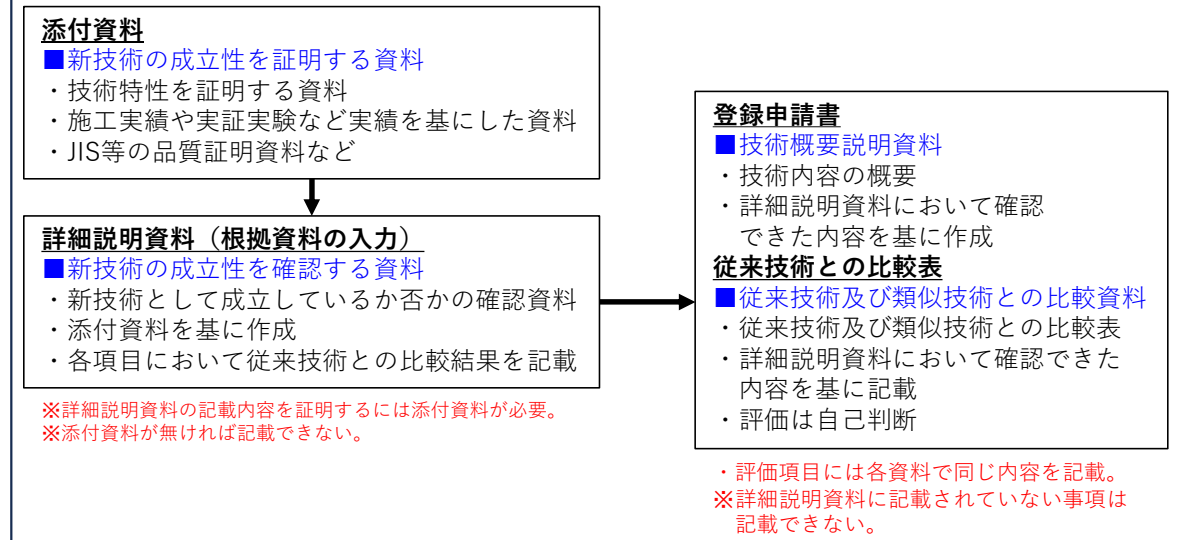
令和 6 年 9 月

中国地方整備局 中国技術事務所

## ◆ 共通確認項目

- 各入力項目間で記載内容、数値等統一を図り、整合がとれているか確認して下さい。
- 記述内容が明らかに間違っていないか、誤字、脱字はないか確認して下さい。
- 「添付写真」「添付図面」「添付グラフ・表」については、画像、文字、数字が鮮明か、読みやすいか確認して下さい。
- 使用する「英字・数字」について大文字・小文字の使用を統一して下さい。
- 句点・句読点の付け忘れがないようにして下さい。
- 文章は簡潔に分かり易く記載して下さい。  
(長文の場合は、箇条書きが分かり易いです。)
- 使用語句について統一を図って下さい。  
例) 安全監視員、安全巡視員、警備員など。
- 語句の使用が適正なのか検討をして記載して下さい。  
例) 利用する、使用する、活用する等の使い分けなど。  
例) 自社価格、見積価格、自社歩掛の使い分けなど。

登録申請書の作成イメージ



## ◆ 目次

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	1
2.「分類・区分」	1
3.「キーワード」「開発目標」	2
4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	2
5.「概要」	3
6.「概要写真」「概要表」	3
7.「新規性及び期待される効果」	4
8.「効果写真」「効果表」	4
9.「技術概要(アブストラクト)」	5
10.「適用条件」	5
11.「適用範囲」	6
11-2.「適用される基準」	6
12.「留意事項」	7
13.「従来技術との比較(経済性・工程)」	8
14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」	10
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	13
16.「施工単価」	14
17.「費用内訳表」「歩掛」	14
18.「施工方法」	15
19.「今後の課題とその対応計画」	16
20.「施工実績」	16
21.「特許・実用新案」	17
22.「第三者評価・表彰等」	17
23.「実験等実施状況」	18
24.「添付資料」	19
25.「参考文献」	21
26.「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」	21
27.「比較表」	22
28.「震災 NETIS」	23
29.「維持管理 NETIS」	24
30.「様式1」新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書	25

※水色部分は入力フォームでは説明文が書いてありますが、本マニュアルでは省略しています

## 1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工期)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

**Point** 特に NETIS 登録名と商標が異なる場合、貼り込む図や添付資料の名称等が統一されているかチェックしましょう。

**1-1** 技術名称

**1-2** 副題

**1-3** 技術開発年

**1-4** 記入年月日

**1-5** 情報提供の範囲

一般  国土交通省のみ

### 1-1 技術名称

- ◆ 名称は他の各入力項目間で統一を図り、同名として下さい。
- ◆ 同名のものが NETIS 上に無いかが要確認。※商標登録もチェックすること。申請する名称は、基本的に変更出来ません。
- ◆ NETIS で検索する際を考慮に入れ、記号やスペース等は出来る限り入れず、あまり長い名称も推奨しません。
- ◆ NG は、次のとおりです。新/New/会社名/型番/紛らわしい名(既に認知度の高い名称と似る等)。

### 1-2 副題

技術名称だけでは不明な部分を補完し、申請技術内容全体、申請技術の用途が簡潔に把握できるものとします。特にその技術の「売り」になっている内容を記載してください。

### 1-3 技術開発年

西暦で記載して下さい。  
記入年月日より未来になっていないか、また施工実績、実験等実施状況の日付と整合性を確認して下さい。  
通常は、実験等実施 → 開発 → 施工実績となるはずで。

### 1-4 記入年月日

申請書類作成日を記載して下さい。右端のカレンダーマークをクリックし、該当の日付を選択します。

### 1-5 情報提供の範囲

特に問題がなければ「一般」(一般公開)を選択します。

## 2. 「分類・区分」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工期)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

分類・区分 **LV1から順に選択してください。(新技術が主に活用される工種を分類1に入力してください。)**

**2-1**

分類1	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類2	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類3	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類4	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類5	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4

### 2-1 分類

- ◆ プルダウンメニューより、レベル1～レベル4まで選択して下さい。
- (注) 分類については、申請した新技術を主として活用される分類(工種)を記入して下さい。
- ◆ 分類が複数あるものは、分類2以降も入力して下さい。(注) 評価する際に適用となる工種は分類1です。
- ◆ **但し、従来技術との比較については分類1に記載した工種で比較すること。**
- レベル1：土工、共通工、基礎工など 31 種類から選択して下さい。
- レベル2：レベル1を細分化したもので、例えば、レベル1：土工の場合、土工、安定処理工、路床改良工、軽量盛土工、施工管理、その他
- レベル3：レベル2を細分化したもので、例えば、レベル2：施工管理の場合、施工管理
- レベル4：レベル3を細分化したもので、例えば、レベル3：施工管理の場合、品質管理、出来形管理、その他
- ◆ 分類については、NETIS 申請情報の「工種で検索」を参考に選択して下さい。
- ◆ 分類は官側でチェックを行い、申請者に修正を願う場合があります。

### 2-2 区分

- ◆ 「工法」、「材料」、「機械」、「製品」、「システム」から選択して下さい。なお、各区分の定義は次のとおりです。

「工法」：材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部、あるいは全体を完遂させるに足る方法。  
「材料」：公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材。  
「機械」：公共工事等に用いる建設機械、作業用機械。  
「製品」：公共工事等により製作、築造される物を構成する一部材であり、新たな加工を要さないもの  
「システム」：材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術などを指す。

- ◆ 分類および区分について、ご不明な点がございましたら、申請・相談窓口にご相談して下さい。

### 3. 「キーワード」「開発目標」

1. 「技術名称」「課題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工手順」	17. 「費用内訳表」「手順」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

**3-1 キーワード**

安心・安全 環境 情報化 コスト削減・生産性の向上

公共工事の品質確保・向上 景観 伝統・歴史・文化 リサイクル

**3-2**

**3-3 開発目標**

省人化 省力化 経済性の向上 施工精度の向上 耐久性の向上 安全性の向上

作業環境の向上 周辺環境への影響抑制 地球環境への影響抑制 省資源・省エネルギー

リサイクル性向上 品質の向上 その他

最大3つまで選択可能です。

**3-1 キーワード(固定)**  
申請技術の性能として該当するものを8つの固定キーワードから最大3つまで選択可能です。  
※但し、各入力項目で裏付けできているか確認すること。

**3-2 キーワード(自由記入)**  
NETISで全文検索されることを考慮し、様式2内で使用されていない単語を設定して下さい。  
最大3つまで記載可能です。

**Point** キーワード(固定・自由記入)はNETIS検索でヒットしやすいように設定するものです。  
NETISは全文検索なので、様式内で使用されている単語は全て検索対象です。  
従って、様式内で使用されていない単語をキーワードとして下さい。

**3-3 開発目標**  
その他(自由記入)を含めて最大3つまで選択可能です。該当するものが無い場合、その他を選択し( )に自由記入して下さい。  
※但し、各入力項目で裏付けできているか確認すること。

### 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」

1. 「技術名称」「課題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工手順」	17. 「費用内訳表」「手順」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

**4-1 開発体制**

共同研究(産・官・学)  単独(産)  単独(学)  単独(官)

共同研究(産・産)  共同研究(産・官)  共同研究(産・学)

**4-2 開発会社**

**4-3 問合せ先(技術)**

会社名

部署名

担当者

郵便番号

住所

TEL

FAX

E-MAIL

URL

**4-4 問合せ先(営業)**

会社名

部署名

担当者

郵便番号

住所

TEL

FAX

E-MAIL

URL

**4-5 問合せ先(その他)**

項目追加

会社名	部署名	担当者	郵便番号	住所	TEL	FAX	E-MAIL	URL	削除
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

**4-1 開発体制**  
開発体制は、1つ選択して下さい。複数の会社で共同開発の場合、申請者と開発者が異なる場合は、技術使用に関する同意書・許諾証などの別途添付が必要です。

**Point** 複数の会社で共同開発の場合、申請者と開発者が異なる場合は、NETIS登録同意書・特許技術使用同意書(写し)を添付資料として提出して下さい。

**4-2 開発会社**  
開発に携わった会社名、団体名を全て記載して下さい。  
複数入力する場合は「、(区切り)」で記入して下さい。

**4-3 問合せ先(技術)**  
申請する新技術の技術的な内容に関する問合せ先と担当者名を記入して下さい。

**4-4 問合せ先(営業)**  
申請する新技術の営業に関する問合せ先と担当者名を記入して下さい。  
(技術と同様の場合にも記入して下さい)

**4-5 問合せ先(その他)**  
上記以外で、問合せに対応できる会社(支店・営業所等も可)等名を記載して下さい。  
(40件まで追加できます。)

## 5. 「概要」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要(アブストラクト)」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較(経済性・工程)」	14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工手順」	17.「費用内訳表」「手順」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実験等実施状況」	24.「添付資料」
25.「参考文献」	26.「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27.「比較表」	28.「震災NETIS」	29.「維持管理NETIS」
30.「様式1-新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

### 5-1 概要

NETISに掲載する概要です。全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①何について何をやる技術なのか？

②従来は、どのような技術で対応していたのか？

③公共工事のどこに適用できるのか？

④その他

④その他 ①～③の記載にて技術の補足説明が必要な場合、④に記載して下さい。

### 5-1 概要

①何について何をやる技術なのか？

⇒箇条書きで簡潔に表現してください。

例) ・深層混合処理工法

- ・厚層基材吹きつけによる法面安定工法
- ・〇〇について、□□する技術 など

軽量盛土と再生木材による<sup>※1</sup>擁壁工法で、工期短縮・環境負荷軽減・コスト削減に寄与する<sup>※2</sup>事が出来る画期的なもの<sup>※3</sup>である。

※1：新規性及び期待される効果の①に記述する内容です。

※2：新規性及び期待される効果の②に記述する内容です。

※3：このような主観的な表現は、概要の説明には不用です。

②従来はどのような技術で対応していたのか？

◆「△△工事」のように箇条書きで簡潔に表現して下さい。

◆従来技術とは、申請技術の比較対象となる技術で、評価する際の比較基準となります。

なお、従来技術は過去に自社で開発されたもの、自他社において NETIS に登録されている技術は不可とし、工法・機械等については、原則として「国土交通省土木工事標準積算基準」、「港湾土木積算積算基準」等に記載されている工法から選定して下さい。材料等については、一般的に使用されているものから選定して下さい。

◆該当する工法等が無く補足が必要な場合は、例②のように2行目に従来技術の概要を記載して下さい。

例① 機械除草(肩掛式)年2回×20年間

例② 「人力による〇〇作業」

人力で△△を用いて〇〇するものであり□□が必要である。

下線部は、13.「従来技術との比較(経済性・工程)」の従来技術名に記入する文言と同じです。

③公共工事のどこに適用できるのか？

⇒適用工事を箇条書き「・」で整理し、簡潔に記述して下さい。

また、震災 NETIS、維持管理 NETIS への登録を希望される場合は、その適用を記載して下さい。

例) ・道路工事

・車線拡幅工事

・地滑り対策工事 などのように併記して下さい。

④その他

⇒補足説明が必要な場合などに、③まで書き終えてから、④・その他・追記・詳細等で見出しを作成していただき、そこに文字数の許す範囲で記述して下さい。

※申請技術に専用付属製品がある場合は、「④その他」に記載して下さい。

## 6. 「概要写真」「概要表」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要(アブストラクト)」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較(経済性・工程)」	14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工手順」	17.「費用内訳表」「手順」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実験等実施状況」	24.「添付資料」
25.「参考文献」	26.「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27.「比較表」	28.「震災NETIS」	29.「維持管理NETIS」
30.「様式1-新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

### 6-1 概要写真

この画像がサムネイルに設定されます。サムネイル：(見出しの写真)のこと

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

登録済み写真名：

または

ファイルを選択

選択されていません

クリックして添付する画像を選択・添付して下さい。

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

概要写真タイトル

色の付いた見出し行・列とすることができます。

### 6-2 概要表

見出し 列数 0 行数 0


概要表タイトル

### 6-1 概要写真・概要写真タイトル

NETIS 検索時、検索結果一覧で最初に表示される写真となるため、申請技術内容全体が分かるような写真・イメージ図等を必ず添付して下さい。

◆写真タイトルを必ず記入して下さい(全角 25 文字以内)。

◆写真(図)などのファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。

◆画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000pixel 以内にして下さい(縦 A4 サイズで出力できる)。

◆図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。

### 6-2 概要表・概要表タイトル

申請技術内容を表により示すことができます。

申請技術に種類がいくつもある場合は、こちらに製品規格表を記載して下さい。

20 列×20 行まで可能(行や列の挿入は出来ません)。



概要表を使って、新技術の仕様(形状や大きさ等)や構成、適用範囲等を示しましょう。いくつかの仕様がある場合、この欄にて示すとわかりやすくなります。

## 7. 「新規性及び期待される効果」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

### 7-1 新規性及び期待される効果

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか？)

②期待される効果は？(新技術活用のメリットは？)

③その他

## 8. 「効果写真」「効果表」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

### 8-1 効果写真

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

または

ファイルを選択

選択されています

クリックして添付する画像を選択・添付して下さい。

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

効果写真タイトル

色の付いた見出し行・列とすることができます。

### 8-2 効果表

見出し 列数 0 行数 0


効果表タイトル

### 7-1 新規性及び期待される効果

比較対象となる「従来技術」がない場合は、申請・相談窓口にご相談して下さい。

①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか？)

⇒申請技術の新規性を簡潔に記載して下さい。

◆AをBに変えた。CがDになった。Eを追加した。Fを取り除いた。等、物理的・倫理的変更要因を箇条書きで簡潔に記載して下さい。

- 例) ・盛土材(A)を××から〇〇に変えた。(B)  
 ・コンクリート製のプレキャスト板(C)が、廃材を利用した再生木材からなる板になった。(D)  
 ・改良機の先端にリブを取り付けた。(E)

②期待される効果は？(新技術活用のメリットは？)

⇒①どこに新規性があるのか？と対応できるよう、整理して箇条書きで記載して下さい。

期待される効果が大きい順番に記載します。改善点は、可能な限り定量化してください。

- 例) ・盛土材を〇〇に変えたことにより(B)、地盤改良の必要性が無くなり、コストリットが向上した。(コスト〇%縮減)  
 ・再生木材からなる板に変えたことにより(D)、環境負荷を軽減出来、かつコスト縮減が図られる。  
 ・リブを取り付けたことにより(E)、直進性が向上し、品質向上に繋がった。

※赤文字部分が期待される効果になります。活用効果調査表の評価6項目の何に該当するかを意識して記載します。(実験等で実証・確認されている必要があります)

※青色下線は具体的なメリットを示しています。

＜参考＞活用効果調査表の評価6項目	
<p><b>経済性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機械経費・部品経費・補助材経費が減少/削減したため</li> <li>作業人員を削減/削減したため</li> <li>設置費が削減/削減したため</li> <li>施工日数が削減/削減したため</li> <li>施工費が削減/削減したため</li> <li>施工費削減によるコスト削減/削減したため</li> <li>施工費削減によるコスト削減/削減したため</li> </ul>	<p><b>安全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>墜落・転倒等の危険性が減少/削減したため</li> <li>災害時の危険性が減少/削減したため</li> <li>汚染・落下物等の危険性が減少/削減したため</li> <li>作業環境(暑がり・騒音・振動作業等)が改善/改善したため</li> <li>危険物の取扱いが適切/適切だったため</li> </ul>
<p><b>工期</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工日数が短縮/短縮したため</li> <li>二班制稼働が実現/実現したため</li> <li>作業工程が短縮/短縮したため</li> <li>作業工程が短縮/短縮したため</li> <li>施工日数の削減/削減したため</li> </ul>	<p><b>施工性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現場での施工が容易/容易だったため</li> <li>取組が容易/容易だったため</li> <li>作業員の作業負担が軽減/軽減したため</li> <li>熟練者に依存した作業が減少/減少したため</li> <li>施工の効率化が実現/実現したため</li> <li>施工性の向上/向上したため</li> </ul>
<p><b>品質</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質向上/向上したため</li> <li>品質向上/向上したため</li> <li>品質向上/向上したため</li> <li>品質向上/向上したため</li> <li>品質向上/向上したため</li> <li>品質向上/向上したため</li> </ul>	<p><b>環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少/減少したため</li> <li>騒音・振動・振動作業環境が改善/改善したため</li> <li>周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上/向上したため</li> <li>作業環境の改善/改善したため</li> <li>作業環境の改善/改善したため</li> <li>作業環境の改善/改善したため</li> </ul>

**Point**

- ・13.「従来技術との比較(経済性・工程)」と 14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境)への影響」の「活用の効果」と内容が一致している必要があります。(P8 参照)
- ・13,14.の「従来技術との比較」を先に記入すると書きやすくなります。

③その他

⇒開発、コンセプトに至った経緯や、メリットの詳細、説明の必要がある着眼点など。空欄にせず、記載することがない場合、「特になし」と記載して下さい。

### 8-1 効果写真・効果写真タイトル

新規性及び期待される効果で記載した内容が分かり易い写真、図表等を添付して下さい。

- ◆写真タイトルを必ず記入して下さい(全角 25 文字以内)。
- ◆写真(図)などのファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。
- ◆画像ファイルの大きさは 2MB 以内にして下さい。
- ◆画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000pixel 以内にして下さい(縦 A4 サイズで出力できる)。
- ◆図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。

### 8-2 効果表・効果表タイトル

新規性及び期待される効果で記載した内容を分かり易く表現した表を添付して下さい。

20 列×20 行まで可能(行や列の挿入は出来ません)。

**Point**

効果表の作成は必須ではありませんが、新技術の能力、効果等を表形式で記載することができます。

## 9. 「技術概要(アブストラクト)」

- 1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2. 「分類・区分」
- 3. 「キーワード」「開発目標」
- 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5. 「概要」
- 6. 「概要写真」「概要表」
- 7. 「新規性及び期待される効果」
- 8. 「効果写真」「効果表」
- 9. 「技術概要(アブストラクト)」
- 10. 「適用条件」
- 11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
- 12. 「留意事項」
- 13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」
- 14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
- 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16. 「施工準備」
- 17. 「費用内訳表」「歩掛」
- 18. 「施工方法」
- 19. 「今後の課題とその対応計画」
- 20. 「施工実績」
- 21. 「特許・実用新案」
- 22. 「第三者評価・表彰等」
- 23. 「実験等実施状況」
- 24. 「添付資料」
- 25. 「参考文献」
- 26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」
- 27. 「比較表」
- 28. 「震災NETIS」
- 29. 「維持管理NETIS」
- 30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」

### 9-1 技術概要 (アブストラクト)

検索結果に表示する技術の概要です。全角127文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

5. 「概要」タブで記載する内容と整合を図り簡潔に記載して下さい。

### 9-1 概要(アブストラクト)

※申請書印刷時には「16.概要」欄の前に表示されます。



概要(アブストラクト)は、NETIS 検索時、検索結果一覧で最初に概要写真とともに表示される文章で、技術名の下にも表示されます。  
アブストラクトのみで、技術の新規性や効果が分かる内容として下さい。

### 概要(アブストラクト)の記載例

例) 本技術は、土留め・河川護岸・止水壁工事に用いる鋼矢板であり、従来は、U型鋼矢板で対応していた。本技術の活用により、材料費・施工費の縮減や工期の短縮を期待できる。

#### <書き方のポイント>

本技術は○○○○工法<sup>※1</sup>で、従来は△△工法<sup>※2</sup>で対応していた。  
本技術の活用によりコスト縮減が図られ、品質の向上<sup>※3</sup>が期待出来る。

※1 概要：①何について何をやる技術なのか？ に対して記述した内容となります。

※2 概要：②従来はどのような技術で対応していたのか？ で記述した内容となります。

※3 新規性及び期待される効果：②期待される効果は？(新技術活用のメリットは?)で記述した内容のメリットの部分となります。

## 10. 「適用条件」

- 1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2. 「分類・区分」
- 3. 「キーワード」「開発目標」
- 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5. 「概要」
- 6. 「概要写真」「概要表」
- 7. 「新規性及び期待される効果」
- 8. 「効果写真」「効果表」
- 9. 「技術概要(アブストラクト)」
- 10. 「適用条件」
- 11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
- 12. 「留意事項」
- 13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」
- 14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
- 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16. 「施工準備」
- 17. 「費用内訳表」「歩掛」
- 18. 「施工方法」
- 19. 「今後の課題とその対応計画」
- 20. 「施工実績」
- 21. 「特許・実用新案」
- 22. 「第三者評価・表彰等」
- 23. 「実験等実施状況」
- 24. 「添付資料」
- 25. 「参考文献」
- 26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」
- 27. 「比較表」
- 28. 「震災NETIS」
- 29. 「維持管理NETIS」
- 30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」

### 10-1 適用条件

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

#### ①自然条件

#### ②現場条件

#### ③技術提供可能地域

#### ④関係法令等




### 10-1 適用条件

#### ①自然条件

【例】気温、湿度、天候、日照、地形、地質等。⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

#### ②現場条件

【例】スペース、寸法、場所等。⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

#### ③技術提供可能地域

申請技術を提供する地域が限定される場合において、その限定地域と理由を簡潔に記載して下さい。  
⇒なければ「技術提供地域については制限なし。」と記載して下さい。

#### ④関係法令等

申請技術を適用するにあたって、特別に考慮する必要のある法令について記載して下さい。  
⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

発行年・発行元も記述して下さい。

労働安全衛生法等は特に記述しなくても構いません。

基準書等は記述する必要はありません。

## 11. 「適用範囲」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」		
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」
12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」				
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工手順」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	
21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実験状況」	24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	
27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式1.新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」			

### 11-1 適用範囲

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

#### ①適用可能な範囲

#### ②特に効果の高い適用範囲

#### ③適用できない範囲



### 11-1 適用範囲

技術として成立させるために最低限必要な基準や管理値、規格値およびその引用元を箇条書きで簡潔に記入してください。

#### ①適用可能な範囲

【例】施工場所、施工量、規格、施工規模、施工地域等。

#### ②特に効果の高い適用範囲

技術のアピールポイント（従来技術との比較－活用の効果 の欄）と整合するように記入して下さい。

#### ③適用できない範囲

申請技術が適用できない範囲、理由等があれば記載して下さい。

⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

【例】夜間や暗所、氷点下〇度以下の地域等。

## 11-2. 「適用される基準」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」		
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」
12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」				
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工手順」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	
21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実験状況」	24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	
27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式1.新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」			

### 11-2 適用される基準

#### ①設計基準

○ なし

○ 協会等の基準を適用

「協会等の基準を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

○ 独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

#### ②積算基準

○ なし

○ 協会等の歩掛情報を適用

「協会等の歩掛情報を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

○ 独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

#### ③施工管理基準

○ なし

○ 協会等の基準を適用

「協会等の基準を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

○ 独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

### 11-2 適用される基準

◆適用にあたり、関連する基準および引用元：土木共通仕様書やその他基準類等を記入して下さい。

◆発行年・発行元、項目、頁数も記述して下さい。

◆記載事項がない場合には、「なし」を選択して下さい。

◆協会のマニュアル等は記述する必要はありません。

【例】「〇〇〇基準」（〇〇〇協会 平成〇年度）

◆添付ファイルは、公開しても構わない資料を添付して下さい。

## 12. 「留意事項」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」				
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」		
12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「手順」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」
21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」		
27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式1:新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」					

### 12-1 留意事項

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

#### ①設計時

#### ②施工時

#### ③維持管理時

#### ④その他

### 12-1 留意事項

#### ①設計時

調査・測量・試験・設計時において、必要、留意、考慮すべき事項があれば、箇条書きで記載して下さい。  
⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

#### ②施工時

施工時において、必要、留意、考慮すべき事項があれば箇条書きで記載して下さい。  
管理項目についても同様に記載して下さい。  
⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

#### ③維持管理等

維持管理に関して必要、留意、考慮すべき事項があれば、箇条書きで記載して下さい。  
⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。  
【例】定期点検、消耗品等。

#### ④その他

補足事項があれば、箇条書きで記載して下さい。⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

1) 「材料・機械・製品」の場合は、**提供のみであるのか、施工や設計も提供するのか、施工方法の講習会等があるのか等、記載して下さい。**

また、製造状況、商品在庫状況、納期の目安についても記載して下さい。

2) 「工法・システム」の場合は、**本申請技術の施工や設計も提供しているのか、施工方法の講習会等があるのか等、記載して下さい。**

3) **技術の提供方法(販売、リース、協力会社のみ施工可等)を記入して下さい。**

※「取扱説明書による」という記載ではなく、「取扱説明書」等から**主要な留意事項を選定して記載すること。**

13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」

14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」

における留意点

活用の効果	13-1	従来技術名	
	13-2	経済性	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠
		変化値	
		工程	○短縮 ○同程度 ○増加 比較の根拠
		変化値	
		品質	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠
		安全性	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠
		施工性	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠
		周辺環境への影響	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠
		自由項目	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠
		自由項目	○向上 ○同程度 ○低下 比較の根拠

13-1 従来技術名

原則として、土木工事標準積算基準書等に掲載されている技術公共工事等で標準的、一般的に使用されている技術を従来技術として下さい。

- ◆従来技術は、既存の NETIS 登録技術を参考に定め、申請窓口にてその妥当性を説明し、確認を得たものを挙げて下さい。
- ◆従来技術設定に悩む場合は、事前に相談して下さい。(従来技術が変わると手戻りになります。)
- ◆過去に自社で開発されたものとの比較は不可とします。
- ◆原則として、NETIS 登録されている技術を従来技術とするのは不可とします。
- ◆材料等については、一般的に使用されているものから選定し施工を含めて比較して下さい。
- ◆「概要②従来は…?」と同一技術として下さい。

13-2 活用の効果(向上・同程度・低下)

各項目について、従来技術と比較して選択して下さい。

13-3 比較の根拠

従来技術と比較するポイント(視点)・根拠を、記載して下さい。

- ◆記入に際しては、何が向上したのか、何が低下したのか 等の「何」にあたる部分を具体的に記述して下さい。(全角 30 文字以内)

例) ○○の作業員が減少したため経済性が向上する/○○の材料が不要になるため経済性が向上する/○○の工程が不要になるため工期が短縮される/○○の危険性がなくなるため、安全性が向上する/○○が自動化されるため施工性が向上する など

◆比較の根拠は、同程度の場合でも必ず記入して下さい。

例) 安全性は従来技術と同程度である/周辺環境への影響は従来技術と同程度である など

◆根拠が無く、同程度を選択した場合は、根拠資料の入力(詳細説明資料)で「-」を入力して下さい。

「自由項目」欄は基本的には使用せず、経済性・工程と上記4項目(計6項目)で従来技術との比較を行って下さい。その他欄に項目を増やす場合はご相談下さい。

「比較の根拠」作成時、右記の<参考>活用効果調査表の評価6項目を参考にしてください

この技術が NETIS 登録後、工事で活用された際は、活用効果調査表により評価されます。活用効果調査表では評価の視点として、下記の参考欄に示した「優れていた点・劣っていた点」の項目にチェックすることで評価を行います。「比較の根拠」欄を記入する際、参考にして下さい。



<参考> 活用効果調査表の評価6項目

<p>経済性 優れていた点 劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 作業人員が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 仮設費が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 施工日数が短縮/延長したため</li> <li><input type="checkbox"/> 施工量が想定数量より多かったため/少なかったため</li> <li><input type="checkbox"/> 維持管理費の減少/増加が見込まれるため</li> </ul>	<p>安全 優れていた点 劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 墜落・転落事故の危険性が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 重機災害の危険性が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 飛来・落下物災害の危険性が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上/悪化したため</li> <li><input type="checkbox"/> 危険物の取扱が減少/増加したため</li> </ul>
<p>工程 優れていた点 劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 施工日数が短縮/延長したため</li> <li><input type="checkbox"/> 工程計画が組みやすかったため/組みづらかったため</li> <li><input type="checkbox"/> 予定工程どおりに進捗したため/進捗しなかったため</li> <li><input type="checkbox"/> 施工性が向上/劣るため</li> </ul>	<p>施工性 優れていた点 劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 現場での施工が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 仮設工が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 作業員の作業が容易になった/手間が増えたため</li> <li><input type="checkbox"/> 熟練度に依存した作業が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 施工の機械化が向上/低下したため</li> <li><input type="checkbox"/> 施工時の制約条件が減少/増加したため</li> </ul>
<p>品質・出来形 優れていた点 劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 品質が向上/低下したため</li> <li><input type="checkbox"/> 出来形・精度が向上/低下したため</li> <li><input type="checkbox"/> 耐久性が向上する構造/劣る構造になったため</li> <li><input type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度が減少/増加したため</li> </ul>	<p>環境 優れていた点 劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少/増加したため</li> <li><input type="checkbox"/> 騒音・振動・粉塵作業環境が改善/悪化したため</li> <li><input type="checkbox"/> 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上/低下したため</li> <li><input type="checkbox"/> 産業廃棄物の発生量が減少/増加したため(リサイクル性が向上/低下したため)</li> <li><input type="checkbox"/> 省エネルギー・省資源化が向上/低下したため</li> </ul>

### 13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」

- 1. 「技術名称」「課題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2. 「分類・区分」
- 3. 「キーワード」「開発目標」
- 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5. 「概要」
- 6. 「概要写真」「概要表」
- 7. 「新規性及び期待される効果」
- 8. 「効果写真」「効果表」
- 9. 「技術概要(アブストラクト)」
- 10. 「適用条件」
- 11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
- 12. 「審査事項」
- 13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」
- 14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
- 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16. 「施工単価」
- 17. 「費用内訳表」「手順」
- 18. 「施工方法」
- 19. 「今後の課題とその対応計画」
- 20. 「施工実績」
- 21. 「特許・実用新案」
- 22. 「第三者評価・表彰等」
- 23. 「実験等実施状況」
- 24. 「添付資料」
- 25. 「参考文献」
- 26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」
- 27. 「比較表」
- 28. 「震災NETIS」
- 29. 「維持管理NETIS」
- 30. 「様式1新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」

#### 13-2 経済性・工程

「経済性」の「変化値」は、下記の「新技術の内訳」と「従来技術の内訳」に記入すると自動計算され、表示されます。また、活用の効果欄の「経済性」および「工程」の「変化値」にも表示されます。

活用の効果

従来技術名

13-2 経済性  向上  同程度  低下 比較の根拠

変化値

13-2 工程  短縮  同程度  増加 比較の根拠

変化値

#### 13-4 活用の効果の根拠

- ◆ 基準とする数量については、16.「施工単価」において想定された数量・単位の記載内容と一致させて下さい。極力 1、10、100 を基準数量として記入して下さい。なお、これにより難しい場合についても具体的数量当りの費用として記入して下さい(「1式」当りは不可です)。
- ◆ 工程については、「新技術の内訳」「従来技術の内訳」と工程比較表の内容を精査し、記載して下さい。

※赤点線枠内をクリックすると、下記の「活用と効果の根拠」が表示され、入力できるようになります。

#### 13-4

活用と効果の根拠

経済性・工程の変化は以下を入力すると計算されます。  
数値は半角で入力してください。

基準とする数量  単位

13-5 新技術の内訳追加

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	編集/削除
合計0円/□あたり							

13-5 従来技術の内訳追加

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	編集/削除
合計0円/□あたり							

工程：新技術  日 工程：従来技術  日

#### 13-5 新技術の内訳・従来技術の内訳

- ◆ 金額は、施工単価を算出するための内訳です。このため、必ずイニシャルコストで計算して下さい。なお、トータルコストが向上する場合は、比較の根拠に詳細を記述して下さい。
- ◆ 条件付で比較する場合は、「摘要」に条件を記入して下さい。
- ◆ 施工時必要と考えられる項目を全て記載し、閲覧者が簡易に積算できるように記載して下さい。
- ◆ 特許料が発生する場合は、必ず内訳に計上して下さい。
- ◆ 「製品・機械」の内訳については、基本的に損料・賃料として計上して下さい。
- ◆ 「小型機械(発電機・高圧洗浄機等)」はレンタル製品・レンタル機械としての内訳として下さい。
- ◆ 「従来技術」の内訳については標準歩掛を基本とし、施工時に必要と考えられる項目を全て記載して下さい。
- ◆ 計上が難しい「仮設費」「産業廃棄物運搬・処分費」等については、「16.施工単価\_積算条件」に別途記載して下さい。
- ◆ 摘要の欄には歩掛、単価の引用元を記載して下さい。

#### 入力フォーム

項目

仕様

数量

単位

単価

金額

摘要

追加 閉じる

仕様の欄には、材料・機械の種類等を記載すること。

摘要の欄には、歩掛、単価の引用元を記載すること。  
【例】自社歩掛・協会歩掛、見積歩掛、  
令和〇年度土木工事標準積算基準書  
自社価格・協会価格・見積価格  
建設物価〇年〇月・  
令和〇年度公共工事設計労務単価(〇〇県)

「経済性」「工程」に記載した内容の根拠資料(PDF)を、「24.添付資料」に必ず添付して下さい。



・積算根拠資料は以下のものを含みます。

- ・数量算定根拠(構造図・数量計算書など)
- ・積算内訳書
- ・施工パッケージ型積算方式の場合は条件が確認できる資料
- ・歩掛や単価等の引用元記載ページのコピー
- ・工程の根拠は積算資料と同条件としてください。

## 14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」	15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
16. 「施工手順」	17. 「費用内訳表」(表紙)	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」
21. 「特許・実用新案」	22. 「各評価項目をクリックすると、それぞれの「詳細説明資料(根拠資料)」記載欄が表示されます。」	23. 「品質」	24. 「安全性」	25. 「施工性」
26. 「周辺環境への影響」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式」新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書

## <詳細説明資料の入力ポイント>

- ①を入力した場合、以降②③④⑤⑥⑦⑧は必須となります。
- 標準的な基準や自社基準等も無く①が記入できずに「-」となった場合は ②⑧も「-」となります。
- ①②が「-」であっても③を記入した場合、以降の④⑤⑥⑦は必須となります。
- 小項目、①、③の記載内容は整合させて下さい。
- 新技術の性質上、全ての欄が「-」となることがあります。
- 新技術のみが有する項目で、従来技術には無い項目の場合は、従来技術との比較欄④は「-」となります。



14-1

品質  向上  同程度  低下 比較の根拠

安全性  向上  同程度  低下 比較の根拠

施工性  向上  同程度  低下 比較の根拠

周辺環境への影響  向上  同程度  低下 比較の根拠

自由項目 (全角20文字)  向上  同程度  低下 比較の根拠

自由項目 (全角20文字)  向上  同程度  低下 比較の根拠

### 品質 (品質・出来形、耐久性)

- 品物またはサービスが使用目的を満たしているかどうかを決定するための評価の対象となる固有の性質および性能の全体・当該技術の正確さ、寸法、形などの出来上がり技術によって得られる成果が継続的かつ長期的に保持できる性能
- 耐久性(物性)：物理的特性値、化学的特性値を保持できる期間
  - 耐久性(形状)：目的物の形状を保持できる期間
  - 耐久性(能力)：能力を示す特性値を保持できる期間
  - 材料：技術で用いる材料が具備する強度、密度、質量などの特性値
  - 施工：技術を適用するプロセスにおいて必要な管理基準や規格値など
  - 完成物：技術によって得られる成果の正確さ、外から見た場合の寸法、形、大きさ、見栄えなど

品質管理項目が減少した効果は品質の施工欄に記載します。

### 詳細説明資料

小項目を追加する場合は、追加した中項目を選択後、「行追加」ボタンをクリック。

評価項目			申請者入力欄								
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号(根拠データ等)	⑧基準値等の引用もと	備考
品質	耐久性(物性)	小項目を入力 例)鉛直方向支持力	新技術が満たすべき基準値等を入力 ① 例)800kN/m	基準値等を満たしているか入力 ② 例)「現行基準に適合」、 「現行基準に比べて20%向上」	確認結果を入力 ③ 例)各杭ごとに鉛直方向支持力を行い、 杭の鉛直方向支持力が全て800kN/m <sup>2</sup> 以上であることを確認した。	従来技術との比較結果を入力 ④ 例)同等 800kN/m	数値等が得られた条件を入力 ⑤ 例)試験施工において最大施工深さ：Φ267.4→34.7m、 Φ355.6→41.0mを実施した結果	実証方法と確認した機関の両方を入力 ⑥ 例) 試験施工・載荷試験 (H13.4月～H16.4月)、 性能評価：(財)日本建設センター	根拠が記載された添付資料名・番号を入力 ⑦ 例)資料番号3：○○工法設計書	現行基準値等の引用元を入力 ⑧ 例)道路橋示方書、同解説 [IV 下部構造編] (H14.3)日本 道路協会 12.11.4鋼管杭	基準があり適合することを示す場合①から⑧に入力
	耐久性(形状)	例)本体寸法	例)-	例)-	例)Φ1200(上部投入口)×Φ850	例)-	例)本技術の仕様による	例)自社確認	例)資料番号○：「○○」図面	例)-	基準がない項目では③から⑦に入力する
	耐久性(能力)	例)○○強度	例)○○吊上げ時の荷重に耐えられること	例)適合	例)強度試験による○○部に異常は見られなかった。	例)-	例)実証試験による確認	例)連続300回、連続吊上げ2時間による○○の強度確認。 自社確認	例)資料番号○：「○○」強度確認結果	例)自社基準	自社基準に適合することを示す場合①から⑧に入力
	材料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全く関連がない項目であれば全て「-」
	施工	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	完成物	例)○○の出来形	例)-	例)-	例)ほぼ1mで均一化	例)同等 従来技術も同様の出来形のため	例)施工実績による	例)自社確認	例)資料番号○：試験施工結果	例)-	

※「評価項目」、「①現行基準値等」、「③申請技術について実証により確認した数値等」、「④従来技術との比較<結果>」はNETISで公開されます。

表ですので、数値や確認結果のみ入力して下さい。  
「従来技術では～」  
「新技術では～」という言葉は不要です。

申請者記入欄							
①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号(根拠データ等)	⑧基準値等の引用もと
・申請技術に対応した現行基準値等を記入して下さい。 ・場合により、自社設定値、製造基準値、品質管理値等を記入して下さい。	・「①現行基準値等」が記入されている場合のみ記入して下さい。 ・「申請技術について実証により確認した数値等」を「現行基準値等」と比較した結果を記入して下さい。	・評価項目毎に申請技術の数値等と内容について実証により確認した要点を記入して下さい。 ・数値等の記入に際しては、活用した際の試行調査の基礎資料となるため、一般的な測定方法で確認できることなどの配慮を行うこと。	・想定している従来技術の数値等との比較した結果を記入して下さい。 ・同等、向上等の比較および理由を明記して下さい。 ・比較の根拠の内容と整合させて下さい。	・「③申請技術について実証により確認した数値等」を採取したときの条件を記入して下さい。	・「③申請技術について実証により確認した数値等」の実証方法と確認した機関名を記入して下さい。(公共試験機関、自社)	・「③申請技術について実証により確認した数値等」の根拠となる添付資料とその資料番号とその資料名およびページ番号を記入して下さい。 ・ここに記載した資料は、「24.添付資料」に記入して下さい。	・「①現行基準値等」が掲載されている引用元と、その数値が掲載されている箇所を具体的に(発行年、発行元、項目、頁数等)に記入して下さい。

詳細説明資料

14-2

評価項目		
大	中	小
安全性	構造	
	施工段階	

14-2 安全性

技術によって得られる成果（もの、システム、サービス）および適用するプロセスの安全性（労働安全や運搬機材の安全性など労働安全衛生法上の安全性は含まない）

- ・**構造**：技術によって得られる成果の構造やシステムの安全性やその成果を利用する場合の安全性（例えば、交通安全や防災等に関するものも含む）。
- ・**施工段階**：施工中の現場内および周辺での安全性やその管理のしやすさ

14-3

評価項目		
大	中	小
施工性	現場条件	
	適用範囲	
	自然条件	
	施工管理	
	難易度	

14-3 施工性

施工における適用条件、難易度など

- ・**現場条件**：当該技術が適用可能な現場条件（自然条件以外）  
⇒適用条件(本マニュアル 5 ページ)と内容を一致させて下さい。
- ・**適用範囲**：当該技術が適用可能な適用範囲（制約条件）  
⇒適用範囲(本マニュアル 6 ページ)と内容を一致させて下さい。
- ・**自然条件**：当該技術が適用可能な自然条件（地形、地質、気象など）  
⇒適用条件(本マニュアル 5 ページ)と内容を一致させて下さい。
- ・**施工管理**：当該技術の施工における管理項目や管理頻度など
- ・**難易度**：当該技術の施工にあたっての難しさの程度、**熟練した技術者の要不要、専門工の要不要**

14-4 周辺環境への影響（環境）

技術によって得られる成果が、社会に与える影響

- ・**社会環境**：当該技術の適用時に発生する地域や社会への影響
- ・**作業員環境**：当該技術の適用時に発生する現場内(作業環境)への影響（**騒音、振動、粉塵等**）

14-4

評価項目		
大	中	小
環境	社会環境	
	作業員環境	



活用効果の評価項目のうち、4項目が社会環境に該当します。

- 環境 優れていた点 劣っていた点
- 周辺環境への影響（大気・土壌・水質汚染）**が減少／増加したため
  - 騒音・振動・粉塵作業環境**が改善／悪化したため
  - 周辺の自然・生態環境・景観との調和**が向上／低下したため
  - 産業廃棄物の発生量**が減少／増加したため（リサイクル性が向上／低下したため）
  - 省エネルギー・省資源化**が向上／低下したため



周辺環境への影響(環境)欄における「作業員環境」は、**騒音・振動・粉塵等**に限られます。

**事故等に関する作業員環境**は、**安全性欄の「施工段階」**へ、**作業のしやすさに関する作業員環境(重労働が解消された、手間が減った等)**は、**施工性欄**へ記載して下さい。

詳細説明資料入力例

※NETISホームページで詳細説明資料の記入例として公開されているものと同じ内容です。

評価項目			申請者入力欄								
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号(根拠データ等)	⑧基準値等の引用もと	備考
品質	耐久性(物性)	△△強度	△△強度 ○○N/mm2	適合	△△強度 ◇N/mm2であることを確認した。	従来よりも△△強度が増加するので向上	△△試験	△△試験 (財)○○試験センター	添付資料4：△△試験	『土木工事共通仕様書 ○-○-○ △△』令和○年版 P.△△～◇◇	-
	耐久性(形状)	□△の耐久性	□□がないこと。	適合	□□による□□がないことを確認した。	従来も□□による□□がないので同等	耐□△試験	□△試験 (財)○○試験センター	添付資料5：耐□△試験	『道路橋示方書・同解説○○編』 (H△. △月) P.□□～△△	-
	耐久性(能力)	特性値を保持する期間	-	-	□□年以上改修が不要であることを確認している。	従来は△△年で改修が必要なので向上	試験施工	○○○工法試験施工 社内検証	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	-	-
	材料	材料の規格	JIS○○○	適合	使用材料はJIS○○○であることを確認している。	従来も使用材料はJIS○○○なので同等	JIS○○○規格	××試験 (財)○○試験センター	添付資料7：××試験	『土木工事共通仕様書 ○-○-○ △△』令和○年版 P.△△～◇◇	-
	施工	使用機械	○○を使用して施工すること。	適合	○○を使用して施工していることを確認した。	従来も○○を使用するので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料2：○○○工法施工 要領	自社規格	-
	完成物	○○の構造仕上げ	厚 ±○○mm	適合	厚 ±○○mmの範囲内であることを確認した。	従来は±△△mmであることから、数値のばらつきを抑制できるため向上	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料2：○○○工法施工 要領	『土木工事共通仕様書 ○-○-○ △△』令和○年版 P.△△～◇◇	-
安全性	構造	○○の構造	施工後に△△がないこと。	適合	△△がないことを確認している。	従来も施工後に△△が無いことから同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料2：○○○工法施工 要領	『土木工事共通仕様書 ○-○-○ △△』令和○年版 P.△△～◇◇	-
	施工段階	作業員に対する事故等の発生	作業員に対する事故等が発生しないこと	適合	施工実績において作業員に対する事故等は発生していないことを確認している。	従来も作業員に対して事故等は発生していないので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料2：○○○工法施工 要領	自社基準	-
施工性	現場条件	作業スペース	○m×○mの作業スペースが必要。	適合	○m×○mの作業スペースがあれば施工可能であることを確認している。	従来も○m×○mの作業スペースが必要なので同等	試験施工	○○○工法試験施工 社内検証	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	自社基準	-
	適用範囲	適用範囲	△△～□□の範囲内であること。	適合	△△～□□の範囲内で施工可能であることを確認した。	従来は△△～□□であることから、適用範囲の拡大が図れるため向上	試験施工	○○○工法試験施工 社内検証	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	自社基準	-
	自然条件	天候	悪天候時は施工しないこと	適合	悪天候時は施工していないことを確認している。	従来も悪天候時は施工できないので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	自社基準	-
		気温	施工時の周囲温度が0℃以上、40℃以下であること。	適合	施工時の周囲温度が0℃以上、40℃以下であることを確認している。	従来も気温に関する制約があるので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	自社基準	-
	施工管理	施工管理項目及び頻度	施工管理○○m2に1回	適合	厚さの施工管理は、○○m2に1回行っていることを確認した。	従来も施工管理が、○○m2に1回必要なので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	『土木工事共通仕様書 ○-○-○ △△』令和○年版 P.△△～◇◇	-
	難易度	熟練工への依存度	有資格者による施工	適合	○○の取り扱いには、△△の有資格者が行っていることを確認した。	従来も○○の取り扱いは有資格者によるので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料6：○○○工法試験 施工結果	自社基準	-
環境	社会環境	資源	○○のリサイクル	適合	○○をリサイクルし施工できることを確認している。	従来は○○をリサイクルしていないことから、廃棄物処理量の減少が図れるため向上	◇◇試験	◇◇試験 (財)○○試験センター	添付資料8：◇◇試験	自社基準	-
	作業員環境	作業員環境	作業員への環境配慮	適合	作業環境において作業員へ○○を実施し、適切な配慮を講じていることを確認した。	従来技術も申請技術と同様の事項を行っているため同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料2：○○○工法施工 要領	『土木工事安全技術施工指針安全 措置一般』令和○年版 P.○○～○○	-

# 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」

- 1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2. 「分類・区分」
- 3. 「キーワード」「開発目標」
- 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5. 「概要」
- 6. 「概要写真」「概要表」
- 7. 「新規性及び期待される効果」
- 8. 「効果写真」「効果表」
- 9. 「技術概要(アブストラクト)」
- 10. 「適用条件」
- 11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
- 12. 「留意事項」
- 13. 「従来技術との比較(経済性・工期)」
- 14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
- 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16. 「施工準備」
- 17. 「費用内訳表」「歩掛」
- 18. 「施工方法」
- 19. 「今後の課題とその対応計画」
- 20. 「施工実績」
- 21. 「特許・実用新案」
- 22. 「第三者評価・表彰等」
- 23. 「実験等実施状況」
- 24. 「添付資料」
- 25. 「参考文献」
- 26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」
- 27. 「比較表」
- 28. 「震災NETIS」
- 29. 「維持管理NETIS」
- 30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」

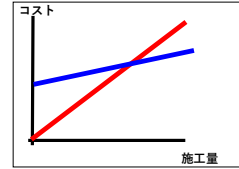
## 15-1 その他、技術のアピールポイント等(全角127文字)

「入力する▼」をクリックすると下記画面が表示されますので該当する型にチェックをして下さい。  
 サイクルコスト型を選択する場合は表を入力して下さい。

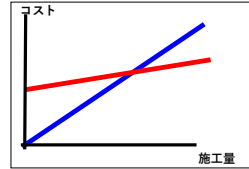
## 15-2 新技術のコストタイプ

### 損益分岐点型：A

プラント設置などの初期投資に費用がかかるが、施工量が増やせば、単位あたりの単価が安くなるパターン  
 ※残土処理施設など



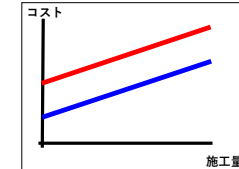
A (I) 型



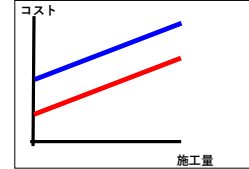
A (II) 型

### 並行型：B

導入の時点から単価差があり、施工量に関わらず、その差に変化がないパターン  
 ※施工機械の違いによる技術など



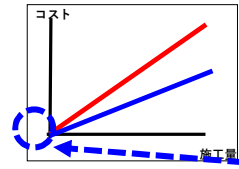
B (+) 型



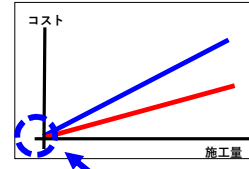
B (-) 型

### 発散型：C

導入の時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増すパターン  
 ※材料や製品を含む技術など



C (+) 型

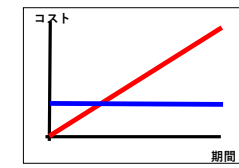


C (-) 型

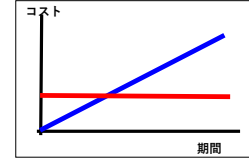
## 15-3 サイクルコスト型：D

基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コストと経年との関係でサイクルコストとしての特性を表すパターン  
 ※維持管理が関係する技術など  
 ※サイクルコスト型を選択する場合は以下の表を入力してください。

サイクルコスト(円/単位あたり)				
	1年	3年	5年	10年
新技術	0	0	0	0
従来技術	0	0	0	0



D (I) 型



D (II) 型

## 15-1 その他、技術のアピールポイント等

従来技術で対応しきれなかった、あるいは課題があった等に対し、本技術の有効性を箇条書きで簡潔に記述できる欄です。  
 6項目に記載できない特徴を記載してもよいでしょう。(必須項目ではありません)

## 15-2 コストのタイプ

申請技術の内容を踏まえ、コストタイプを選択して下さい。

### A/A(I)型：損益分岐点型

プラント設置などの初期投資に費用がかかるが、**施工量が増えれば、単位あたりの単価が安くなる**パターン  
 ※当初、申請技術が高いが将来従来技術が高くなり逆転する。最終的に従来技術が高くなる。

### A(II)型：損益分岐点型

プラント設置などの初期投資に費用がかからないが、**施工量が増えれば、単位あたりの単価が高くなる**パターン  
 ※当初、従来技術が高いが将来申請技術が高くなり逆転する。最終的に申請技術が高くなる。

**Point** 施工量の適用範囲が限定される技術はこちらです。

### B/B(+)型：平行型

導入の時点から単価差があり、施工量にかかわらず、**その差に変化がない**パターン  
 ※当初より従来技術が高く将来も差が詰まらない。

### B(-)型：平行型

導入の時点から単価差があり、施工量にかかわらず、**その差に変化がない**パターン  
 ※当初より申請技術が高く将来も差が詰まらない。

**Point** 新技術と従来技術の初期導入費が異なるものの、**施工費(労務費等)が同じ技術で、コスト差が平行線となる技術**はこちらです。  
 例)新規性として安全機能がプラスされた草刈機

### C/C(+)型：発散型

導入時の**単価差の有無に関わらず**、施工量に比例して単価差が増すパターン  
 ※当初より申請技術が安く将来その差が広がる。

### C(-)型：発散型

導入時の**単価差の有無に関わらず**、施工量に比例して単価差が増すパターン  
 ※当初より申請技術が高く将来その差が広がる。

**Point** 多くの技術はこちらです。  
 新技術と従来技術の単価差がある場合はこちらです。

### D/D(I)型：ライフサイクルコスト型

基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コストと経年との関係で**サイクルコスト**としての特性を表すパターン  
 ※**申請技術が一定で将来従来技術が追い越す。**

### D(II)型：ライフサイクルコスト型

基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コストと経年との関係で**サイクルコスト**としての特性を表すパターン  
 ※**従来技術が一定で将来申請技術が追い越す。**

## 15-3 サイクルコスト型(D)を選択した場合は、新技術と従来技術の1年後、3年後、5年後、10年後における単位当たりのコストを入力して下さい。

**Point** 初期投資額が高いものの、長期間で比較すると有利になる技術はこちらです。  
 例) 防草シート技術：「機械除草工(肩掛式)(年2回×10年=20回)」の経費と比較

## 16. 「施工単価」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」
29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式1:新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」			

### 16-1 施工単価

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

### 16-1 施工単価

「活用の効果\_経済性・工程」の算出条件等を記載例に従い記載して下さい。

※標準的な現場を想定して単位数量を算出すること。

※経済性の算出時に必要な積算条件、数量、単価の根拠をすべて記載してください。

一式計上は行わず、添付する積算資料とともに根拠を必ず明記すること。

◆標準歩掛が存在しないものは独自歩掛による積算資料も添付可能です。

◆別途見積が必要な事項も記載すること。

#### （記載例）

□積算条件…新技術・従来技術に共通する条件を記載して下さい。

- ・施工規模：延長 L = XXm 高さ Xm の擁壁
- ・資材単価：建設物価 令和〇年 X月
- ・労務単価：令和〇年度公共工事設計労務単価【〇〇県】、令和〇年度設計業務等技術者単価
- ・消費税は含まず

□新技術

- ・施工規模：新技術の技術名称・規格・数量を記載して下さい。
- ・現場条件：産業廃棄物は発生しない。
- ・積算条件：自社歩掛

□従来技術

- ・施工規模：従来技術の技術名称・規格・数量を記載して下さい。
- ・現場条件：産業廃棄物はダンプ運搬 20 km
- ・積算条件：令和〇年度国土交通省土木工事標準積算基準書

◆申請する新技術の単価及び損料等のいずれかが分かるように記入して下さい。

◆算出条件に、経済性に加味されている内容として機材材込みなのか、製品価格のみなのか、間接費含みなのかなど条件を記載して下さい。

◆経済性でコスト縮減効果がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記入して下さい。

◆適用条件（適用年次、地域等による単価の変動があるもの）を記入して下さい。

◆経済性でコスト縮減効果がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記入して下さい。

◆登録する技術の区分を「材料・製品等」とした際も、必ず施工費までを含めた比較を行って下さい。

（材料単価のみの記述は不可とします。）

◆従来技術に対しての比率（縮減率等）での記入は不可とします。

また、物価資料、見積による等の表現も不可とします。

必ず金額を示して下さい。

**Point**  
 自社価格（自社で見積もった価格）、  
 自社歩掛（自社で策定した歩掛）、  
 見積価格（外部他社で見積もった価格）等、  
 類似した語句の使用については、適正な語句を  
 記載して下さい。

## 17. 「費用内訳表」「歩掛」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」
29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式1:新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」			

### 17-1 費用内訳表

費用内訳表  
 タイトル

費用内訳表  
 色の付いた見出し行・列とすることができます。 見出し 列数  行数

工種	(事例)		
材料費	〇〇	~	〇〇
施工費	〇〇	~	〇〇
合計	〇〇	~	〇〇

### 17-1 費用内訳表・費用内訳表タイトル

「16.施工単価」の文章を補足する一覧表が作成できます。

20 列×20 行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

**Point**  
 費用内訳表の作成は必須ではありませんが、  
 新技術の製品に複数の種類がある場合や  
 より詳細な内訳を示したい時などに使用する欄です。  
**施工単価と同じ内容を入力する必要はありません。**

### 17-2

○ なし ○ 標準歩掛 ○ 暫定歩掛 ○ 協会歩掛 ○ 自社歩掛

### 17-2 歩掛

該当するものを選択して下さい。

◆標準歩掛とは、国土交通省土木工事標準積算基準書・市場単価であり、施工実態調査を元に、標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量を各々の工種毎に設定したものです。

◆暫定歩掛とは、新技術活動支援施策で提供している歩掛。（公共工事の発注者の負担を軽減して新技術の採用促進を図るため、既に活用実績が多い新技術や活用ニーズの高い新技術について、積算資料等の技術情報を提供）

◆協会歩掛、自社歩掛の場合は、歩掛が分かる資料を添付して下さい。なお、資料の提出が無い場合又は、根拠が明確でない資料の場合は、“なし”になります。

## 18. 「施工方法」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「手順」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」				

### 18-1 施工方法

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

### 18-2 施工方法写真

クリックして添付する画像を選択・添付して下さい。

登録済み写真名：

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

#### 施工方法写真 タイトル

色の付いた見出し行・列とすることができます。

### 18-3 施工方法表

見出し 列数 0 行数 0


#### 施工方法表 タイトル

### 18-1 施工方法

申請技術を使用する時の手順に番号を付け、箇条書きで項目だてし、施工内容・使用資機材を簡潔に記載して下さい。

- ◆従来技術の施工フローを並べて記述することにより「工程根拠」の参考になるのでできるだけ記述すると良いでしょう。
- ◆「製品・機械」について「取扱説明書による。」という記述はせず、「設置方法、使用方法等」を記載して下さい。
- ◆また、実際の工程だけでなく、前後に必要な準備やフォロー等の記述もあれば、より分かり易く、かつ技術として成熟していることがよく分かります。

### 18-2 施工方法写真・施工方法写真タイトル

写真データは 1 枚で、形式は JPG 又は GIF とし、1 枚あたりのファイルの大きさは 2MB 以内、画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000pixel 以内にして下さい。  
写真タイトルは必ず記入して下さい。（全角 25 文字以内）。  
施工手順が分かるように、イラスト等（実際の施工写真でも構いません）を使用して、視覚的に表現して下さい。

上記「施工方法」の施工手順と、フロー図もしくは写真の手順を一致させ、①・②・③…など、簡単に対比できるようにすると良いでしょう。

### 18-3 施工方法表・施工方法表写真タイトル

施工方法に関する表を作成することができます。  
見出し行を作成する場合は、見出しの列数行数の数字を選択し作成して下さい。  
20 列×20 行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

一つの画像に結合

A	B
C	D

➔

A	B
C	D

写真や図を複数枚添付する場合は、画像編集ソフト等で 1 つの画像に結合すると、添付することが可能となります。

施工方法表の作成は必須ではありませんが、適用条件が異なる場合等で使用できます。

## 19. 「今後の課題とその対応計画」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「手順」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

### 今後の課題とその対応計画

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①今後の課題

②対応計画

19-1

### 19-1 今後の課題とその対応計画

⇒なければ「特になし。」と記載し、空白にならないようにして下さい。

- ①今後の課題 申請技術における今後の課題を記載して下さい。
- ②対応計画 残された今後の課題に対する対応計画を記載して下さい。

## 20. 「施工実績」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要(アブストラクト)」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」	14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「手順」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書」				

### 施工実績

20-1

#### 実績件数(国土交通省)

※旧建設省、旧運輸省含む

国土交通省  件

国土交通省における施工実績(20件まで)

※現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

「実績追加」をクリックすると右記画面が表示されますので、入力して下さい。

20-2

#### 実績追加

工事名	<input type="text"/>
事業種類	<input type="text"/>
地方整備局名	<input type="text"/>
事業所	<input type="text"/>
CORINS登録番号	<input type="text"/>
施工開始	<input type="text"/>
施工終了	<input type="text"/>
追加	閉じる

20-1

#### 実績件数(国土交通省以外)

※旧建設省、旧運輸省除く

その他公共機関  件

民間  件

国土交通省以外における施工実績(20件まで)

※現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

「実績追加」をクリックすると右記画面が表示されますので、入力して下さい。

20-2

#### 実績追加

工事名	<input type="text"/>
発注者(種別)	<input type="text"/>
発注者(事務所名等)	<input type="text"/>
CORINS登録番号	<input type="text"/>
施工開始	<input type="text"/>
施工終了	<input type="text"/>
追加	閉じる

工事名	発注者(種別)	発注者(事務所名等)	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集・削除
-----	---------	------------	------	------	------------	-------

### 20-1 実績件数(国土交通省および国土交通省以外)

下記「実績」と整合を図り、施工実績件数を記載して下さい。

※本工事が終了していないものは、実績として件数に含めないで下さい。  
実績件数が無い場合には、0件と記入して下さい。

### 20-2 実績

正確な工事名称、発注者(種別及び事務所名等)、CORINS登録番号、**全体施工期間**を記載して下さい。

CORINS登録番号がどうしても分からない場合は空白でも構いません。

なお、件数が多く20件を超える場合は、最新の実績(もしくは代表的な実績)から順に記入するようにして下さい。

国土交通省の**事業種類**についての定義は、以下のとおりです。

- ・技術活用パイロット：新技術を試行し、積算資料及び施工資料の整備等に関する事項を調査するために行う事業
- ・特定技術活用パイロット：技術活用パイロットのうち建設技術協議会において特定した技術を対象として統一的かつ重点的に行うもの
- ・試験フィールド：新技術を試行し、現場における適用性等、活用の効果等を検証するために行う事業
- ・リサイクルモデル事業：パイロット事業において、技術により発生抑制や再生利用を行う事業
- ・一般工事：一般の直轄工事
- ・特定試験フィールド：試験フィールドのうち建設技術協議会において特定された、事業執行上のニーズが特に高い技術を対象として、検証を行う事業

・その他：直轄以外の工事

注1) 実績件数は、発注者が国土交通省(旧建設省、旧運輸省)、その他公共機関、民間であるか否かで判断します。

注2) 施工期間は、元請け工事の施工期間を記入して下さい。

注3) CORINS登録番号はできる限り確認して記入して下さい。また、業務実績の場合には、番号の後ろに(TECRIS)と記入して下さい。



製品・機械では、納品日しか把握していないことも多いと思いますが、可能な限り(例えば5件)、使用した工事名と発注者、工期を聴取し、記入するようにして下さい。

## 21. 「特許・実用新案」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	27. 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」	28. 「比較表」	29. 「震災NETIS」
30. 「維持管理NETIS」	31. 「様式1-新技術情報」	32. 「様式2-新技術情報」	33. 「様式3-新技術情報」	34. 「様式4-新技術情報」

「入力する▼」をクリックすると下記画面が表示されますので入力して下さい。

21-1 特許・実用新案

入力する▼

特許情報1	実用新案
特許番号	<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 出願中 <input type="radio"/> 出願予定 <input type="radio"/> 無し
特許	有りの場合 ：特許番号
特許-通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し
特許-専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し
特許権者	実施新案- 通常実施権
実施権者	実施新案- 専用実施権
特許料等	備考
実施形態	全角1000文字以内。半角カタカナ 及び連続するスペースは入力できません。
問い合わせ先	

21-1 特許・実用新案

申請技術に関する特許・実用新案がある場合（出願中も含む）分かる範囲で全て記載して下さい。

**特許の場合は特許番号の続きに、実用新案の場合は備考欄に、それぞれ「特許取得内容」「特許出願内容」を簡潔に記載して下さい。**

**Point** 申請者と特許取得者が異なる場合は、「特許使用同意書」を「24.添付資料」に必ず添付して下さい。

## 22. 「第三者評価・表彰等」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	27. 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」	28. 「比較表」	29. 「震災NETIS」
30. 「維持管理NETIS」	31. 「様式1-新技術情報」	32. 「様式2-新技術情報」	33. 「様式3-新技術情報」	34. 「様式4-新技術情報」

「入力する▼」をクリックすると下記画面が表示されますので入力して下さい。

22-1

入力する▼

建設技術審査証明	建設技術評価
建設技術番号、評価年月日、評価機関 いずれかを入力すると残りが必須となります。	建設技術番号、評価年月日、評価機関 いずれかを入力すると残りが必須となります。
建設技術番号	建設技術番号
評価年月日	評価年月日
評価機関	URL
URL	
その他の制度等による証明1	
制度の名称	
番号	
証明年月日	
証明機関名称	
証明範囲	
URL	

入力欄が足りない時は、「項目追加」タブをクリックして入力します。

※現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください

証明項目	
試験・調査内容	
結果	
追加	閉じる

評価項目	試験・調査内容	結果	編集・削除
------	---------	----	-------

22-1 第三者評価・表彰等

国土交通省及び建設技術審査証明協議会が実施している建設技術評価(建設技術研究開発助成制度)、建設技術審査証明事業、民間開発建設技術の技術審査・証明事業、港湾関連民間技術の確認審査・評価事業において、評価・証明された技術について、該当する箇所を記入して下さい。

### ■建設技術審査証明

建設技術審査証明とは、建設技術審査証明協議会会員等の国土交通省所管である 16 の公益法人による技術審査および証明を示します。但し、過去に建設技術証明を取得した技術であっても、有効期間が過ぎているものは、当該の証明が有効とはなりません。

### ■建設技術評価

建設技術評価とは、昭和 53 年建設省告示第 976 号に基づいて、国土交通省(旧建設省)が開発 課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて、国土交通大臣が評価を与えた技術を示します。

### ■港湾関連民間技術の確認審査・評価事業

平成 12 年 10 月から(財)沿岸技術研究センターの自主事業として開始されたものです。この事業で評価を与えた技術を示します。

### ■その他の制度等による証明

その他の制度等による証明とは、他省庁で行っている制度を示します。その他の制度等における証明された技術について、制度名称、番号、証明年月日、証明機関名称、証明範囲等を記載します。

### ■第三者評価・表彰等<追加>欄

民間開発技術審査・証明事業における評価・証明された技術について、証明項目、試験・調査内容、結果を記載します。

## 23. 「実験等実施状況」

- 1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2. 「分類・区分」
- 3. 「キーワード」「開発目標」
- 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5. 「概要」
- 6. 「概要写真」「概要表」
- 7. 「新規性及び期待される効果」
- 8. 「効果写真」「効果表」
- 9. 「技術概要（アブストラクト）」
- 10. 「適用条件」
- 11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
- 12. 「留意事項」
- 13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」
- 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
- 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16. 「施工手順」
- 17. 「費用内訳表」「手順」
- 18. 「施工方法」
- 19. 「今後の課題とその対応計画」
- 20. 「施工実績」
- 21. 「特許・実用新案」
- 22. 「第三者評価・表彰等」
- 23. 「実験等実施状況」
- 24. 「添付資料」
- 25. 「参考文献」
- 26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」
- 27. 「比較表」
- 28. 「審査NETIS」
- 29. 「維持管理NETIS」
- 30. 「様式1:新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」

**23-1** 実験等実施状況

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

**23-2** 実験等実施状況写真

登録済み写真名：

ファイルを選択

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

**23-3** 実験等実施状況表

実験等実施状況写真タイトル

色の付いた見出し行・列を作成することができます。

見出し 列数  行数


実験等実施状況表タイトル

23-1

### 実験等実施状況

- ◆申請する新技術の成立性、適用性等を確認するために、どのような実験を実施し、どのような結果が得られたかについて、代表的な実験結果を図表も使って定量的に説明して下さい。
  - ◆また、この結果が従来技術あるいは技術基準と比較して、どのような結果が出たかについても説明して下さい。
- 以下の記載例に従い記入してください。

#### (記載例)

1. 試験実施日：（年月日、時間等）
2. 試験場所（実験した場所）：公的機関である必要はない。自社実験で十分である。
3. 目的：何についてのデータを収集するための実験か。
4. 試験方法：何をどのようにすることでデータを取ったか。
5. 結果：実測値（確認した数値）を記述。
6. 考察：基準値を記載し、結果〇〇であることがわかった。



記載内容が確認できる資料として、必ず「**実験実施結果報告書**」を「24.添付資料」に添付して下さい。

23-2

### 実験等実施状況写真・実験等実施状況写真タイトル

実験等実施状況の分かる写真及び結果内容の根拠となるグラフ等を添付して下さい。写真タイトルは必ず記入して下さい（全角 25 文字以内）。



必須項目ではありませんが、写真により、実験等の結果を分かり易く伝えましょう。(推奨項目)

23-3

### 実験等実施状況表・実験等実施状況表タイトル

実験等実施状況内容が分かり易い表を添付してください。写真タイトルは必ず記入して下さい（全角 25 文字以内）。20 列×20 行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。



必須項目ではありませんが、実験等実施状況表により、実験等の結果を伝えたい場合に入力して下さい。

## 24. 「添付資料」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」	「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」
19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」
24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	
27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」	30. 「様式1-新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」	

24-1 添付資料

※ファイルはPDF形式のみとし、登録した添付資料の合計が50MBまでとさせていただきます。

添付資料1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。  
または  
ファイルを選択

ファイル名を  
「添付資料 1：積算根拠資料」とする。

タイトル

登録済みファイル名：  
積算根拠資料

「タイトル」欄をファイル名と一致させ  
「積算根拠資料」と入力する。

添付資料の1枚目の記載例

資料の1枚目右上にファイル名と同じ  
「添付資料 1：積算根拠資料」を記  
入する。

添付資料 1：積算根拠資料

24-1

添付資料 では、各入力項目の根拠となる資料をすべて添付してください。

新技術だけでなく、比較する従来技術の数値が確認できる資料も提出をお願いします。  
(基準書等に該当しない場合、自社歩掛・自社基準でよい)



- ①積算根拠資料 ②工程比較資料 ③技術のパンフレットまたは、標準仕様書 ④実験実施結果報告書  
⑤設計基準書や施工管理基準書の写しなど ⑥施工要領書または取扱説明書 ⑦その他技術資料（技術の成立性を示す資料 や 技術の品質等を証明する資料）⑧NETIS 登録同意書（共同開発者がいる場合）⑨特許使用同意書（共同特許権者がいる場合）

◆14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」における詳細説明資料で記載する  
「⑦添付資料名・番号(根拠データ等)」と整合を図って下さい。

◆公共工事設計労務単価・設計業務等技術者単価・労働安全衛生法・JIS 規格などの公的文書は、  
該当箇所のみ資料として添付して下さい。

◆ファイルは PDF 形式のみとし、登録した添付資料の合計が 50MB までとして下さい。(ファイル数は最大 30 まで)  
※ここに添付した資料は NETIS ホームページには掲載されず、国土交通省の内部資料となりますが、  
NETIS 閲覧者の要請に応じ、NETIS 申請者より提供できるものとします。

◆「タイトル」欄とアップロードするファイル名を一致させてください。  
また、資料番号と資料名を1枚目右上に記載してください。

◆技術の概要を示したカタログや独自の技術指針等で公表可能な資料は「26. 「その他ダウンロード資料」」へ添付をお願いします。NETIS ホームページからダウンロード可能な資料となります。

◆提出が必要となる資料について、留意事項をまとめております。不足のないように、24.「添付資料」欄にて、アップロードをお願いします。

添付資料および資料名	例	記載が必要な内容	整合性を確認する箇所	留意点																																																																																																		
添付資料1：積算根拠資料	<table border="1"> <tr> <th colspan="8">従来技術</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>単位</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th colspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <td>材料費</td> <td>幅1.0m × 長さ10m</td> <td>231</td> <td>m</td> <td>498</td> <td>115038</td> <td colspan="2">ロス率5%</td> </tr> <tr> <th colspan="8">新技術</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>単位</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th colspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <td>材料費</td> <td>幅1.0m × 長さ10m</td> <td>231</td> <td>m</td> <td>498</td> <td>115038</td> <td colspan="2">ロス率5% 自社価格 115.5m × 2回</td> </tr> <tr> <td>労務費</td> <td>普通作業員</td> <td>2</td> <td>人</td> <td>18900</td> <td>37800</td> <td colspan="2">R5広島県</td> </tr> </table>	従来技術								項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要		材料費	幅1.0m × 長さ10m	231	m	498	115038	ロス率5%		新技術								項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要		材料費	幅1.0m × 長さ10m	231	m	498	115038	ロス率5% 自社価格 115.5m × 2回		労務費	普通作業員	2	人	18900	37800	R5広島県		<p>・従来技術および新技術に関する経済性の算出根拠を記載して下さい。</p> <p>以下のものを含まず。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数量算定根拠（構造図・数量計算書など）</li> <li>積算内訳書</li> <li>施工パッケージ型積算方式の場合は条件が確認できる資料</li> <li>歩掛や単価等の引用元記載ページのコピー</li> <li>自社価格であれば見積書など</li> </ul>	<p>13.「従来技術との比較（経済性・工程）」</p> <p>15.「その他、技術のアピールポイント等」</p> <p>「新技術のコストタイプ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準的な現場での積算としてください。</li> <li>国土交通省土木工事標準積算基準書、市場単価、土木工事標準単価、施工パッケージ積算方式標準単価が適用できる場合には、適用してください。</li> <li>新技術のため、適用できず自社歩掛である場合には、自社歩掛を提出してください。</li> <li>機械や製品は、基本的に損料・賃料にて計上してください。</li> </ul>																																										
従来技術																																																																																																						
項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要																																																																																																
材料費	幅1.0m × 長さ10m	231	m	498	115038	ロス率5%																																																																																																
新技術																																																																																																						
項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要																																																																																																
材料費	幅1.0m × 長さ10m	231	m	498	115038	ロス率5% 自社価格 115.5m × 2回																																																																																																
労務費	普通作業員	2	人	18900	37800	R5広島県																																																																																																
添付資料2：工程比較資料	<table border="1"> <tr> <th colspan="8">添付資料2：工程比較資料</th> </tr> <tr> <th colspan="8">【新技術】 (単位：10枚当り)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">名称・項目</th> <th rowspan="2">必要日数</th> <th colspan="5">施工(作業)期間</th> <th rowspan="2">合計日数</th> </tr> <tr> <th>2日</th> <th>4日</th> <th>6日</th> <th>8日</th> <th>10日</th> </tr> <tr> <td>○○工</td> <td>3.5</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>17.0</td> </tr> <tr> <td>○○工</td> <td>3.5</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>17.0</td> </tr> <tr> <td>合計日数</td> <td>7.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <th colspan="8">【従来技術】 (単位：10枚当り)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">名称・項目</th> <th rowspan="2">必要日数</th> <th colspan="5">施工(作業)期間</th> <th rowspan="2">合計日数</th> </tr> <tr> <th>2日</th> <th>4日</th> <th>6日</th> <th>8日</th> <th>10日</th> </tr> <tr> <td>○○工</td> <td>8.9</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>44.5</td> </tr> <tr> <td>○○工</td> <td>0.7</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> <td>35.0</td> </tr> <tr> <td>合計日数</td> <td>9.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>79.5</td> </tr> </table>	添付資料2：工程比較資料								【新技術】 (単位：10枚当り)								名称・項目	必要日数	施工(作業)期間					合計日数	2日	4日	6日	8日	10日	○○工	3.5	■	■	■	■	■	17.0	○○工	3.5	■	■	■	■	■	17.0	合計日数	7.0						34.0	【従来技術】 (単位：10枚当り)								名称・項目	必要日数	施工(作業)期間					合計日数	2日	4日	6日	8日	10日	○○工	8.9	■	■	■	■	■	44.5	○○工	0.7	■	■	■	■	■	35.0	合計日数	9.6						79.5	<p>・新技術および従来技術の工程の算出内訳を記載して下さい。</p> <p>・引用元がある場合は引用元記載ページのコピーも提出してください。(該当箇所を赤で囲う、マーキングなど必要)</p>	<p>13.「従来技術との比較（経済性・工程）」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準的な現場での工程としてください</li> <li>施工条件を記載してください</li> </ul>
添付資料2：工程比較資料																																																																																																						
【新技術】 (単位：10枚当り)																																																																																																						
名称・項目	必要日数	施工(作業)期間					合計日数																																																																																															
		2日	4日	6日	8日	10日																																																																																																
○○工	3.5	■	■	■	■	■	17.0																																																																																															
○○工	3.5	■	■	■	■	■	17.0																																																																																															
合計日数	7.0						34.0																																																																																															
【従来技術】 (単位：10枚当り)																																																																																																						
名称・項目	必要日数	施工(作業)期間					合計日数																																																																																															
		2日	4日	6日	8日	10日																																																																																																
○○工	8.9	■	■	■	■	■	44.5																																																																																															
○○工	0.7	■	■	■	■	■	35.0																																																																																															
合計日数	9.6						79.5																																																																																															

添付資料および資料名	例	記載が必要な内容	整合性を確認する箇所	留意点
添付資料3：技術のパンフレットまたは、標準仕様書	<p>添付資料3：パンフレット</p> <p>OR</p> <p>添付資料3：標準仕様書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術の仕様</li> <li>技術の適用範囲、適用条件</li> </ul>	2.「分類・区分」 5.「概要」「概要表」 9.「技術概要（アブストラクト）」 10.「適用条件」11.「適用範囲」12.「留意事項」	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸元表（機械の場合）</li> <li>製品図面 など含む</li> <li>製品の種類がいくつか有る場合は、その仕様の違いや適用条件の違いがわかるようにしてください。</li> </ul>
添付資料4：実験実施結果報告書	<p>添付資料4：実験実施結果報告書</p> <p>(記載が必要な内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.試験実施日：（年月日、時間等）</li> <li>2.試験場所（実験した場所）：公的機関である必要はない。自社実験で十分である。</li> <li>3.目的：何についてのデータを収集するための実験か。</li> <li>4.試験方法：何をどのようにすることでデータを取ったか。</li> <li>5.結果：実測値（確認した数値）を記述。</li> <li>6.考察：基準値を記載し、結果〇〇であることがわかった。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術の成立性・新規性を示す実験結果</li> <li>活用の効果を示す実験結果</li> </ul>	5.「概要」 7.「新規性及び期待される効果」 23.「実験等実施状況」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社実験で十分ですが、試験実施日、試験場所、試験の目的、試験方法、試験結果、考察が確認できる資料としてください。</li> </ul>
添付資料5：設計基準書や施工管理基準書の写しなど	<p>添付資料5：〇〇施工指針（写し）</p> <p>〇〇施工指針 P.5より抜粋</p> <p>⇨新技術の●●に適用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計基準書や施工管理基準書との整合性</li> </ul>	10.「適用条件」 11.「適用範囲」 11-2.「適用される基準」 12.「留意事項」	<ul style="list-style-type: none"> <li>出典を記載してください。</li> <li>該当する箇所をわかるように赤で囲ったり、マーキングしたりして示してください。</li> </ul>
添付資料6：施工要領書または取扱説明書	<p>添付資料6：施工要領書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工方法</li> </ul>	10.「適用条件」①自然条件②現場条件 11.「適用範囲」 12.「留意事項」②施工時 14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」における詳細説明資料 施工性欄 18.「施工方法」	
添付資料7：その他技術資料 (技術の成立性を示す資料) (技術の品質等を証明する資料)	<p>添付資料7：〇〇〇〇</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質</li> <li>安全性</li> <li>環境への影響</li> </ul>	14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」における詳細説明資料 品質、安全性、環境欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の試作試験成績表、配合報告書</li> <li>水理特性値証明書</li> <li>意匠登録証、テクスチャー証明書、明度証明書</li> <li>JIS証明書</li> <li>SDS</li> <li>関係論文</li> <li>プラスチック製品では耐候性試験結果 など</li> </ul>
添付資料8：NETIS登録同意書 (共同開発者がいる場合)	<p>添付資料8：NETIS登録同意書 (様式は問いません)</p> <p>〇〇のNETIS登録について同意します。 令和〇年〇月〇日 □□□株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同開発者がNETISの登録に同意していること。</li> <li>特許権者がNETIS登録に同意していること。</li> </ul>	4.「開発体制」「開発会社」「問い合わせ先」 21.「特許・実用新案」	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の様式でよい</li> </ul>
添付資料9：特許使用同意書 (特許権者が申請者と異なる場合)	<p>添付資料9：特許使用同意書 (様式は問いません)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特許権者が特許使用に同意していること。</li> </ul>	4.「開発体制」「開発会社」「問い合わせ先」 21.「特許・実用新案」	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の様式でよい</li> </ul>

## 25. 「参考文献」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」				

25-1 参考文献

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

25-1 参考文献

新技術に関連する文献、学会等での発表文など。

## 26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1-新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」				

26-1 その他

その他写真1

※写真や図などは、GIFあるいはJPEG形式の画像ファイルにしてください。  
※画像の横幅は最大でも横600ピクセルにおさまるようにしてください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。  
または  
 選択されていません

タイトル

登録済みファイル名：

その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術設計マニュアル、積算基準等)

その他資料①

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。  
または  
 選択されていません

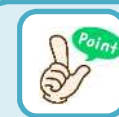
タイトル

登録済みファイル名：  
 ※ファイルはPDF形式のみとし、20MBまでとしてください。

26-1 その他（写真及びタイトル）

申請技術の内容が良く分かる写真(原則カラー)を添付してください。  
添付可能な写真・図は、GIFあるいはJPEG形式で、画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000 pixel 以内にして下さい（縦 A4 サイズで出力できる）。

その他写真、その他資料（カタログ、独自技術設計マニュアル、積算基準等）はそれぞれ3つまで。



「添付資料」欄に添付した資料は、国土交通省内の内部資料であり、NETIS 閲覧者より閲覧要請があった場合のみ開示されます。  
「その他ダウンロード資料」に添付した資料は、NETIS ホームページ上でダウンロードが可能となる資料になります。  
ただし、最長 10 年掲載されることを前提として下さい。

## 27. 「比較表」

- 1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2.「分類・区分」
- 3.「キーワード」「開発目標」
- 4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5.「概要」
- 6.「概要写真」「概要表」
- 7.「新規性及び期待される効果」
- 8.「効果写真」「効果表」
- 9.「技術概要（アブストラクト）」
- 10.「適用条件」
- 11.「適用範囲」
- 11-2.「適用される基準」
- 12.「留意事項」
- 13.「従来技術との比較（経済性・工期）」
- 14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
- 15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16.「施工単価」
- 17.「費用内訳表」「手順」
- 18.「施工方法」
- 19.「今後の課題とその対応計画」
- 20.「施工実績」
- 21.「特許・実用新案」
- 22.「第三者評価・表彰等」
- 23.「実験等実施状況」
- 24.「添付資料」
- 25.「参考文献」
- 26.「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」
- 27.「比較表」
- 28.「震災NETIS」
- 29.「維持管理NETIS」
- 30.「様式1新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」

※「27.比較表」は、NETIS ホームページには掲載されず、国土交通省の内部資料となります。

### 27-1 類似技術

(最大5件まで比較可能)

類似技術の追加

類似技術のリセット

NETIS登録番号を入力してください。  
 ※NETIS番号は、情報種別記号(-A,-VE等)を除く形で入力してください。  
 (例：KT-123456)

NETIS登録番号を入力

「類似技術の追加」タブをクリックすると、画面上にこの入力画面が表示されますので、NETIS 番号を入力し、「追加」ボタンをクリックして下さい。

### 比較表

	新技術	従来技術	既存のNETIS登録技術	既存のNETIS登録技術
27-2	工法概要			
27-3	概略図	入力が必要な欄		
	経済性			
	評価	グレーの欄はデータが		
	工程・工期	自動入力されます。		
	評価			
27-4	品質			
	評価			
	現場条件			
	設計条件			
	安全性			
	評価			
	施工性			
	評価			
	周辺環境への影響			
	評価			
	自由項目			
	評価			
	自由項目			
	評価			
	NETIS番号			
27-5	備考			
27-6	総合評価			

### 27-1 類似技術の追加（既存の NETIS 登録技術）

NETIS 上にある類似の技術の NETIS 登録番号を入力することで、登録情報を基に必要なデータが自動入力されます。  
 NETIS 番号は、情報種別記号（-A、-VE 等）を除く形で入力して下さい。（例：KT-123546）  
 NETIS に載っていない技術は追加できません。  
 類似技術のリセット：追加した類似技術がリセットされます。

**Point** NETIS で検索した類似技術を追加して下さい。申請技術の申請書類の作成参考にしましょう。また、比較することで本技術の新規性をアピールすることにもつながります。

### 27-2 工法概要

アブストラクト程度の内容で記述して下さい。

**Point** 表ですので、「従来技術では～」という言葉は不要です。比較する内容や数値のみ記載して下さい。

### 27-3 概要図

技術の概要が確認でき、視覚的に特徴がつかみやすい写真や画、またはフローなどを入れて下さい。  
 類似技術で資料の無い場合は、空白で構いません。

### 27-4 品質・現場条件・設計条件・安全性・施工性・周辺環境への影響

「14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」で記述した内容に合わせて下さい。  
 また技術によって適用となる条件が違う場合は、同条件での適用の可否と、別条件での場合を2段書きにしてくださいと分かり易いと思います。

### 27-5 備考

特筆すべきことがある場合などに、記入して下さい。

### 27-6 総合評価

従来技術を基準とし新技術、類似技術を同一の視点で比較して下さい。  
**著しく向上：◎、向上：○、同等：△、低下：×**で表現して下さい。

新技術と従来技術との比較

従来技術と既存の NETIS 技術との比較

## 28. 「震災 NETIS」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
2. 「分類・区分」
3. 「キーワード」「開発日標」
4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」
7. 「新規性及び期待される効果」
8. 「効果写真」「効果表」
9. 「技術概要(アブストラクト)」
10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
12. 「留意事項」
13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」
14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
16. 「施工単価」
17. 「費用内訳表」「手順」
18. 「施工方法」
19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」
21. 「特許・実用新案」
22. 「第三者評価・表彰等」
23. 「実験等実施状況」
24. 「添付資料」
25. 「参考文献」
26. 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」
27. 「比較表」
28. 「震災NETIS」
29. 「維持管理NETIS」
30. 「録式1.新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書」

チェックボックスにチェックを入れると、下記ジャンルのチェックボックスがクリックできるようになります。

震災NETIS項目を登録する。

**28-1** ジャンル

がれき・土砂処理	<input type="checkbox"/>	収穫	<input type="checkbox"/>	分別	<input type="checkbox"/>	再生	<input type="checkbox"/>	処分	<input type="checkbox"/>
ライフライン復旧	<input type="checkbox"/>	ライフライン復旧							
液状化対策	<input type="checkbox"/>	液状化対策							
補修・修復	<input type="checkbox"/>	コンクリート構造物	<input type="checkbox"/>	棟梁	<input type="checkbox"/>	路面	<input type="checkbox"/>	河川護岸	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	その他	( <input type="text"/> )						
仮設	<input type="checkbox"/>	足場	<input type="checkbox"/>	照明	<input type="checkbox"/>	仮設トイレ			
	<input type="checkbox"/>	その他	( <input type="text"/> )						
水中作業	<input type="checkbox"/>	水中作業							
無人化施工	<input type="checkbox"/>	無人化施工							
応急復旧	<input type="checkbox"/>	応急復旧							
計測・測量	<input type="checkbox"/>	計測・測量							
計画・設計	<input type="checkbox"/>	計画・設計							
情報通信・情報共有	<input type="checkbox"/>	情報通信・情報共有							
その他	<input type="checkbox"/>	その他	( <input type="text"/> )						

**28-2** 震災対応上の特徴

※全角150文字以内。

**28-3** 関連URL

災害対応関連工事・業務における活用実績

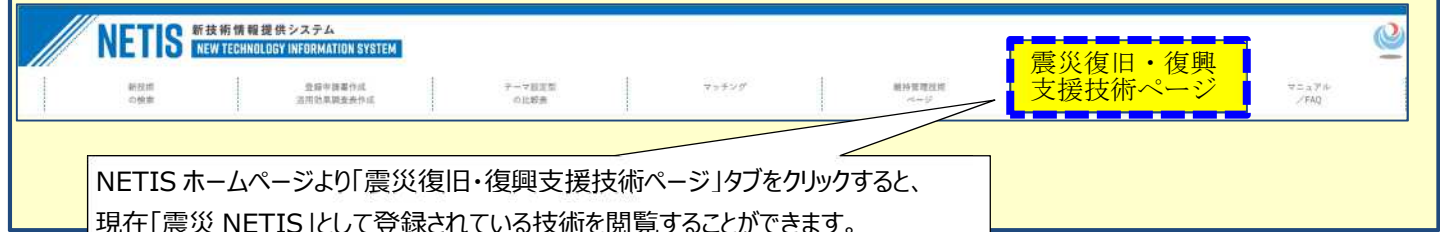
**28-4** 活用工事・業務件数

活用工事・業務件数  件

**28-5** 実績1

工事開始	<input type="text"/>
工事終了	<input type="text"/>
災害名	<input type="text"/> ▼ その他 <input type="text"/>
工事・業務名	<input type="text"/>
発注者	<input type="text"/>

震災 NETIS とは、新技術活用システム(NETIS)の登録された技術を対象として、震災復旧・復興に資する技術を申請者より募り、広く情報提供することで、震災復旧・復興の現場における活用を支援するページです。



NETIS ホームページより「震災復旧・復興支援技術ページ」タブをクリックすると、現在「震災 NETIS」として登録されている技術を閲覧することができます。

※震災 NETIS 項目に登録を希望する場合は、**様式-2 概要③公共工事のどこに適用できるのか？** において、災害復旧等に活用できることを記載して下さい。

**28-1** ジャンル  
固定キーワードから該当するジャンルを選択する。

**28-2** 震災対応上の特徴  
全角 150 文字以内。  
本申請技術の震災対応上の特徴を簡潔に記載する。

**28-3** 関連 URL  
申請技術の関連する URL を記載する。  
申請技術の HP や、申請技術の震災時の復旧・復興にあたった事例等が載っている HP 等。

**28-4** 活用工事・業務件数  
下記「実績」と整合を図り、災害対応関連工事・業務における活用実績件数を記載する。  
※本工事が終了していないものは、実績として件数に含めないで下さい。

**28-5** 実績  
災害対応関連工事・業務における活用実績について記載する。(5 件まで)  
工事開始日、工事終了日、災害名、正確な工事・業務名、発注者を記載する。  
災害名に関して、該当する選択肢が無い場合、その他を選択し右隣枠の「その他 ( )」に災害名を記載すること。  
上記実績件数と整合を図ること。  
※本工事が終了していないものは、実績とならないので記載しないで下さい。

## 29. 「維持管理 NETIS」

1. 「技術名物」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
2. 「分類・区分」
3. 「キーワード」「開発日標」
4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」
7. 「新規性及び期待される効果」
8. 「効果写真」「効果表」
9. 「技術概要（アブストラクト）」
10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
12. 「留意事項」
13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」
14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
16. 「施工準備」
17. 「費用内訳表」「歩掛」
18. 「施工方法」
19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」
21. 「特許・実用新案」
22. 「第三者評価・表彰等」
23. 「実験等実施状況」
24. 「添付資料」
25. 「参考文献」
26. 「その他（写真）」
- 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」
27. 「比較表」
28. 「震災NETIS」
29. 「維持管理NETIS」
30. 「様式1.新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書」

チェックボックスにチェックを入れると、下記ジャンルのチェックボックスがクリックできるようになります。

維持管理NETIS項目を登録する。

### 29-1 ジャンル

トンネル内付属物	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 港湾 <input type="checkbox"/> 空港 <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> ダム
トンネル	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 鉄道
橋梁	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 鉄道
道路付属物	<input type="checkbox"/> 道路
土工	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 鉄道
係留施設外郭施設	<input type="checkbox"/> 港湾
臨港交通施設	
滑走路等舗装構造物	<input type="checkbox"/> 空港
灯台・鉄塔	<input type="checkbox"/> 航路標識
公園施設	<input type="checkbox"/> 公園
水閘門	<input type="checkbox"/> 河川
橋排水機場	<input type="checkbox"/> 河川
橋門樋管	<input type="checkbox"/> 河川
護岸等	<input type="checkbox"/> 河川 <input type="checkbox"/> 海岸
ゲート等	<input type="checkbox"/> ダム <input type="checkbox"/> 海岸
砂防堤	<input type="checkbox"/> 砂防
床固工等の砂防設備	<input type="checkbox"/> 砂防
地滑り防止施設	<input type="checkbox"/> 砂防
急傾斜地崩壊防止施設	<input type="checkbox"/> 砂防
海岸堤防	<input type="checkbox"/> 海岸
建築	<input type="checkbox"/> 建築物
建築設備	<input type="checkbox"/> 建築物
昇降機	<input type="checkbox"/> 建築物

### 29-2 点検等上の特徴

※全角150文字以内。

### 29-3 点検等対象の材質

※全角150文字以内。

### 29-4 点検等の項目

※全角150文字以内。

### 29-5 新技術の活用により期待される効果

※全角150文字以内。

### 29-6 関連URL

### 29-7 公募

### 29-8 点検関連工事・業務における活用実績

活用工事・業務件数  件

※画像幅サイズ：600ピクセル（自動的にリサイズされます）。

### 29-9 実績1

工事開始	<input type="text"/>
工事終了	<input type="text"/>
点検等名	<input type="text"/>
工事・業務等名	<input type="text"/>
発注者	<input type="text"/>
写真	<input type="text"/> 参照... 登録済み写真名： ※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

維持管理 NETIS とは、新技術活用システム(NETIS)の登録された技術を対象として、点検等に資する技術を NETIS 申請者より募り、広く情報提供することで、点検等の現場における活用を支援するページです。



NETIS ホームページより「維持管理技術ページ」タブをクリックすると、現在「維持管理 NETIS」として登録されている技術を閲覧することができます。

※維持管理 NETIS 項目に登録を希望する場合は、様式-2 概要③公共工事のどこに適用できるのか？ において、維持管理等に活用できることを記載して下さい。

### 29-1 ジャンル

固定キーワードから該当するジャンルを選択する。

### 29-2 点検等上の特徴

全角 150 文字以内。  
本申請技術で行うことができる点検等の特徴を簡潔に記載する。

### 29-3 点検等対象の材質

全角 150 文字以内。  
本申請技術で行うことができる点検等で対象とする材質（対象物等）を簡潔に記載する。

### 29-4 点検等の項目

全角 150 文字以内。  
本申請技術で行うことができる点検等の項目を簡潔に記載する。

### 29-5 新技術の活用により期待される効果

全角 150 文字以内。  
本申請技術の活用により期待される効果について、簡潔に記載する。

### 29-6 関連 URL

申請技術の関連する URL を記載する。  
申請技術の HP や、申請技術の点検活用時の事例等が載っている HP 等。

### 29-7 公募

テーマ設定型（技術公募）に参加している、もしくは選定されている技術である場合は、その技術テーマ（技術公募）名を記載する。テーマ設定型に参加（申請）していない技術は「無し」と記載する。

### 29-8 活用工事・業務件数

下記「実績」と整合を図り、点検関連工事・業務等における活用実績件数を記載する。  
※本工事が終了していないものは、実績として件数に含めないで下さい。

### 29-9 実績

点検関連工事・業務等における活用実績について記載する。  
写真の添付に関して、画像サイズは 2MB まで、画像の横幅は 600pixel までとすること。

### 30. 「様式1:新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書」

**様式1への押印は不要です。**

**申請情報の入力時、あわせてご入力いただきますようお願いいたします。**

- 1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2.「分類・区分」
- 3.「キーワード」「開発目標」
- 4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5.「概要」
- 6.「概要写真」「概要表」
- 7.「新規性及び期待される効果」
- 8.「効果写真」「効果表」
- 9.「技術概要(アブストラクト)」
- 10.「適用条件」
- 11.「適用範囲」
- 11-2.「適用される基準」
- 12.「留意事項」
- 13.「従来技術との比較(経済性・工程)」
- 14.「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」
- 15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
- 16.「施工準備」
- 17.「費用内訳表」「手順」
- 18.「施工方法」
- 19.「今後の課題とその対応計画」
- 20.「施工実績」
- 21.「特許・実用新案」
- 22.「第三者評価・表彰等」
- 23.「実験等実施状況」
- 24.「添付資料」
- 25.「参考文献」
- 26.「その他(写真)」
- 「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」
- 27.「比較表」
- 28.「震災NETIS」
- 29.「維持管理NETIS」
- 30.「様式1:新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書」

新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書

受付地整等：中国地方整備局

**30-1** 局長  殿

**30-2** 提出日

会社名 株式会社

会社名(ふりがな) かぶしきがいしゃ

代表者氏名

代表者氏名(ふりがな)

住所地 広島県広島市安芸区船越南2-8-1

電話 082-822-2448

「公共工事等における新技術活用システム」の実施規約に同意の上、下記の通り申請します。  
本申請技術は、NETIS登録技術とは同一技術でないことを制約します。

記

技術名称

技術名称(ふりがな)

商標名   
※商標がある場合に記入

商標名(ふりがな)   
※商標がある場合に記入

担当者窓口 氏名

担当者窓口 氏名(ふりがな)

会社名

所属 施工調査・技術活用課

郵便番号 736-0082

住所 広島県広島市安芸区船越南2-8-1

電話 082-822-2448

FAX 082-823-9706

E-mail chuginetis@cgr.mlit.go.jp

**30-1**

**局長**  
中国地方整備局の局長名を記入してください。

**30-2**

**提出日**  
最終提出日を記入してください。  
※入力内容の不備や添付書類の不足がある場合、何回か修正を依頼し、再提出をしていただくこととなりますが、その最終提出日として下さい。